



11月10日 2013 (平成 25年) 主日礼拝

礼拝開始: 午前 11 時

音楽礼拝・子ども祝福式

前奏

賛美 : 新聖歌 21 (輝く日を仰ぐ時) 1・2・3 節

主の祈り

特別音楽 : 「G線上のアリア」 J. S. バッハ

(倉富亮太さん・藤原昌世さん・山中惇史さん)

メッセージ : 「あなたがそのひとりです」 倉知 契 牧師

コンサート

賛美 と 献金 : ♪ 新聖歌 233 「驚くばかりの」 1・3・4

祝 禱

報 告

子ども祝福式・献児式

【瀬戸ニュース】

- ◇ 素敵な三名の演奏家・お客様を心から歓迎致します。
また初めて教会にお越し下さった方にもお申し上げます。
- ◇ 12/23 (祝・月) 2時には、東京藝大卒業後、日本音楽コンクール 1 位、NHK交響楽団、東京交響楽団で活躍されたホルン奏者・宮田四郎氏がクリスマスコンサートをさせていただきます。
無料・お楽しみに。
- ◇ 今週も祈祷会を大切に！
(木曜10時半 / 土曜掃除10時半・祈祷11時15分)
- ◇ 宿題 (祝大) で聖書の楽しさを体験しましょう！
Aコース : ピレモン～ヘブル6章
Bコース : エレミヤ36章～52章

◇次聖日礼拝奉仕者 (2013年11月17日) [聖餐式]

[司会: 片岡洋一兄、いのり: 下岡晶子姉、聖書朗読: 持田樹理姉]

[ピアノ: 館 節子姉、賛美リード: 大神 雄兄]

[アシスト: 大神久美姉 & 加藤由美子姉]

[献金: 平松友子姉、受付: 赤塚孝子姉]

◇PA: 平松章治兄

◇週報編集: 片岡洋一兄

◇ホームページ編集: 大神真伸兄

◇日曜学校: 持田樹理姉

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」
(ヨハネ三の十六)

日本を代表する指揮者、武満徹先生の「消える音」という文を紹介します。
だが、楽譜は、作曲家が聴き出した実体としての音を、再び、時空を超えて、この世界に喚びもどす装置であり、その不完全さが、逆にそのことを可能にしている。つまり、音楽史は、一面において(消え去った音、即ち楽譜への)転写(トランスクリプション)と註解(コメントリ)の果てしない繰り返しであり、その繰り返しは、だが、一度として同じではなかった。もちろん楽譜は、それとの接し方では、ただの不完全な、動くことのない平面に置かれた記号に過ぎない。

音は消える。ちょうど印度の砂絵のように。風が跡形もなく痕跡を消し去る。だが、その不可視の痕跡は、何も無かった前と同じではない。音もそうだ。聴かれ、発音され、そして消える。しかし消えることで、音は、より確かな実在として、再び聴き出されるのだ。(「消える音を聴く」遠い呼び声の彼方へより)

瀬戸の教会にとって今日は記念すべき音楽礼拝です。誰よりも音を愛し、楽しみ、こだわって、演奏するプロフェッショナルの音を胸一杯に吸い込みたい。優れた音に触れるときに湧き上がるクリエイティビティ(創造性)は、人生を豊かにするだけでなく、過去と未来をつなぐ力です。武満先生のおっしゃるように「音は消えます」が、きっと音楽を超えた何かが残るでしょう。

私も小さい時からピアノを習い、この方々が在学する東京藝大を目指した時期がありました(夢をもつのは自由ですね!)が、高校生で挫折。でも一度も音楽の魅力から遠ざかったことはありません。今ではゴスペルや讃美歌を作詞作曲し、弾き語りをしています。目的がはっきりしたので、より一層音楽の深みに入り込めるようになりました。誰が聴いていなくても、どんな評価を受けたとしても、オーディエンス・オブ・ワン(audience of one)、ただひとり耳を傾けてくださる神様の栄光のために演奏する! バッハが「楽譜」に書き残した Soli Deo gloria の世界に、一歩でも近づけたらと願います。

今日の演奏の御礼にはありませんが、この若い素敵な演奏家たちが世界的に活躍することを、拍手喝采をもって、心からお祈り致します。